

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4751380017		
法人名	社会福祉法人 まつみ福祉会		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	沖縄県豊見城市宇高嶺111番地		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=4751380017-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしの良い高台に位置し、赤瓦屋根のゆったりとした作りになっている。ホーム内は木製の家具が設置され、家庭的な雰囲気である。地域の祭り、イベントには積極的に利用者様をお連れし楽しんでいただいている。関係機関や行政とのかかわりにも積極的に参加し、今年で2回目の認知症カフェ、認知症講演会を開催し、地域支援活動にも取り組んでいる。また、法人内託児所の子供達との交流も積極的で、一緒に季節を感じる絵を創作したり、手遊び、音楽会合同誕生会等、関わりを多く持ち、入居者様も楽しみにしている。共生ケアも充実している。介護実習生や看護学生、職業訓練生、特別支援学校の学生の福祉体験等の実習生受け入れを多く行っており、日中は人が多く、活気がある。

法人は「共に生きる町」共生ケアを展開する複合施設で、日常的に法人内の保育園児や訓練生との交流があり、誕生会やピクニック等も合同で行い利用者の生活のメリハリとなっている。外出支援や地域の行事への参加、利用者と一緒に収穫した実や野菜で果実酢、おやつ作り等で、話題も広がり季節を感じられ回想法にもなっている。全職員で同一の利用者のシートを書いてセンター方式を学んでおり、センター方式を活用して利用者の暮らしや思いを把握、役割等も介護計画に反映し、利用者が“必要とされている・生きがい”が感じられる個別計画となっており、家族が支援できる役割も統括別に記述している。虐待の勉強会で「トイレ誘導も言葉の虐待」と学び、全職員で共有し、「ご案内いたします」等の言葉かけを実践し、尊厳を大切にしている。学び、実践することで職員の質の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 29年 3月 28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中や会議、申し送りの時など、ホームとしてのケアの方法、方向性等を話し合い、ケアの統一を図る。	理念は、3年前に管理者、職員が検討して見直している。職員は名札と一緒に携帯し、ケアに迷う時は自分で理念を確認しながら行っている。毎月スローガンを掲げ、ケアの方法等を話し合い、ケアの統一を努め実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店街に買い物に出掛けたり、地域の自治会主催の地域清掃に職員が参加している。地域の祭りに利用者と一緒に参加している。	地域清掃に職員の参加や地域のいきいき健康教室で管理者が講師を務めている。学生の実習も受け入れている。利用者は近隣の店舗への買い物や地域の行事や催し物(夜見世)に出かけて交流している。地域の保育園児の来所や利用者が訪問して定期的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者の日々の生活の様子、残存機能、入居者の役割、支援の方法など地域の人々や見学者にも周知活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、状況報告や助言、情報交換、ホームの運営やサービスの向上に活かしている。	行政、利用者、家族等参加し、推進会議は年6回開催されている。会議では事業所の状況や活動、事故、ヒヤリハット等も報告され、活発に意見交換している。委員のアイデアで「一介護一声」を意識して取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村担当窓口や広域連合に確認、相談しながら行っている。認知症カフェ、認知症講演会等市町村と協力し開催している。	市担当者とは、推進会議や地域ケア会議で情報交換し、申請代行、事故報告等で毎月窓口を訪問し事業所の状況を伝えている。行政に事業所のパンフレットを置いて頂く、研修等の情報提供もある。認知症カフェの取り組みの継続や認知症講演会も市と協力して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中や会議、申し送りの時など、ホームとしてのケアの方法、方向性を話し合い、ケアの統一を図っている	夜間時のセンサー解除に取り組み低床ベッド、畳と検討、ベッドにソファをつけてずれ落ちに対応している。那覇市の「相談支援」の講演会で「トイレ誘導」も言葉の虐待であると学び、管理者、職員は意識して誘導から「おつれしましょう」「ご案内します」の声かけを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、虐待防止に関する理解や周知を図っている。		

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、虐待防止に関する理解や周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書を十分に説明し、入居者の重度化や状態の変化に事業所として「出来る事、出来ないこと」を説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部からの介護相談員を受け入れ、毎月訪問して入居者の意見、要望を聞き取ってもらい、その意見をホームに伝えてもらうようにしている。意見箱の設置と、話やすい雰囲気づくりに努め、ご家族からの要望や意見を表してもらえるように努めている。又、出された意見や要望は職員会議等で話し合い、改善、運営に活かしている。	家族からは推進会議や年2回の家族会、面会時に声をかけ聞いたり、年1回意識して家族に要望等を聞く機会作りをしている。冷房が直に浴びるのではの声にベットの配置を変更している。介護相談員を受入れ、利用者の声を聴く機会を設け、意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で上がった意見、要望を毎月の部内会議に提案し、更に法人内の管理者会議に連動された体制となっている。日頃から職員の意見や要望を聞いたり、問いかけるよう努めている。	職員からは、職員会議や個別面談、業務中に意見等を聞いている。「駐車場の外灯の交換」や「職員出入口の網戸の設置」の要望は反映している。専門資格試験対策や技術水準の向上に必要な資料等を提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推進や正職員への登用、ワークライフバランス等、職員の働きやすさ、やりがいにつながるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格保有状態や研修への参加状況を把握し、適切な研修の機会を設けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回開催される県グループホーム協会連絡会に参加したり、他ホームと情報交換や施設見学を行い、サービスの質の向上に努めている		

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や、ご本人から、今までの生活状況、不安・要望等の聞き取り、把握に努めている。又、話し雰囲気を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所としてどのような支援や対応が出来るか、ご家族の不安・要望を話し合いながら、関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所として「出来る事、出来ないこと」を説明し、ご本人、ご家族の要望を確認して事業所のサービス利用につなげる対応をしている。法人内においては、各事業所の相談員が集まる会議があり、そこで、情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、得意な分野、興味のある分野を引き出す様努めている。又、一緒に行う事で喜びを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話での問い合わせに、日常生活の様子や、行動などきめ細かく伝えている。又、年2回の家族会を開催し職員・ご家族の交流を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出時、なじみの散髪屋さんに行かれる。又ドライブの再等、自宅周辺に寄るなど、ご家族との関係が途切れないようにしている	地域社会との関係性は、本人や家族等から情報を得て把握に努めている。家族の協力を得て、正月、お盆、行事などに参加している。毎月、模合に出かける利用者もいる。本人の生活背景も尊重し、家族との関わりが持てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う、気の合わない等を見分け、本人同士が支えあう事が出来るように努めている。又職員が間に入ることで、入居者同士の関係がうまく行くよう配慮している。		

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方でも、入居者様と面会に行ったり、支援法歩など情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から生活暦や趣味、好きだったことを等の聞き取りを行ったり、ご本人の希望を聞いたり、選択肢を用意するようにして出来る限り本人の意向に沿えるように努めている。	利用者の思いは、直に聞いたり、家族からの情報、センター方式の24時間シートを活用して日々の生活の中で確認、把握して計画に反映している。困難な場合は、表情や行動等を把握して検討して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族から聞き取りを行ったり、ケアマネから情報をもったり、出来る限りこれまでの生活を把握するようにしている。又、入居されてからもご家族の面会時など聞き取りをようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が状態の把握に努めている。きずきがあれば日報や申し送り等で情報の共有を行っている。又介護職員で判断できない場合は看護師に相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員で話し合い、それぞれの意見や要望をもとに介護計画を作成している。	サービス担当者会議に本人、家族、担当職員も参加し、3か月毎のモニタリング、計画の見直しも行われている。センター方式の暮らしの情報等も活用して介護計画を作成、実施している。役割を活かす事で「任せてもらうことが、自分たちはうれしい」と利用者の声もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の実施記録、特記事項、受診状況を記入し、情報の共有や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて病院受診等の送迎や必要な支援は、可能な限り対応している。平成26年4月より口腔ケアチームの訪問により情報交換を行っている。		

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員の方や、入居者家族などから、徘徊される方への対応など意見をもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらう事で、ご本人の心身の状況をより把握できるように努めている。又ご本人の様子や気になることを同行や文章で主治医に相談している。	利用者はこれまでのかかりつけ医を継続している。受診は家族対応だが、利用開始後の初回受診は職員が同席し利用者の健康状態の把握に努めている。受診時は情報提供を文書で家族に説明し、受診後は医師からの返書及び家族から報告を受けている。法人所属の歯科医師が週1回往診し口腔ケアを行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、入居者の心身の状態の変化や、医療面でも相談、助言を得ている。またご家族、主治医への病状の報告を行ってもらい適切な受診ができるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関を訪問したり、文章で情報を提供したり、情報交換に努めている。又家族とも連携し退院後のケアについて早くから話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を確認しながら、又ご本人の状態を説明しながら、事業所として「出来る事、出来ない事」を説明して、又、ご家族間でも今後の変化に備えて話し合おう助言している	利用契約時に「急変時に関する説明」、救急病院での「緊急時の治療について」は、文書で説明、確認しているが、重度化や終末期に向けた事業所の方針は明文化されていない。医療行為が必要となった場合は他施設や医療機関等に紹介している。	重度化や終末期に向けて、事業所の現状を踏まえた指針の作成に取り組むことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対策をその都度検討している。急変時の対応は看護師と連携しながら日々見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、法人内の協力を得て、通報訓練、消化訓練、避難訓練を年2回実施している	消防署と法人施設職員の協力を得て年2回昼夜想定での通報・消防・避難訓練を実施している。備蓄は利用者の人数分の食料と水を1日3食の1週間分を保存している。	

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを尊重し、思いや、要望を出しやすいよう声かけを行っている。	事業所の理念である「一人ひとりの人格を尊重」を大切に、ていねいな言葉遣いや利用者に対する「教えてもらう姿勢」を心がけ、日頃のケアの中やアセスメントから利用者それぞれのできることとできないことを把握し実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを受け入れるように、行動を制止するのではなく、安全に気を付けながら、付き添い対応を行っている。又ご本人が選択できるよう問いかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や心身の状態に合わせて買い物やドライブ、散歩に出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔などの身だしなみやおしゃれは個別に支援している、女性入居者に対しては、外出時、口紅やマニキュアなど、薄化粧を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が共同で可能な限り食事の準備を行っている。心身の状態に合わせて、無理強いしないようにしている	朝食は職員が準備、昼食は法人の配食を利用、夕食は職員と利用者が一緒にメニューを考えたり買い物、野菜の下ごしらえや食器洗いを行なっている。魚が苦手な利用者には肉に変えて提供したり、節分の日には恵方巻きを作ったりと季節のメニューも考え提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員分を毎食チェックしている。水分摂取量を特に気を付けないといけない利用者はチェック表に記入している。それ以外の方も飲み終わるまで付き添い、確実に飲んだことを確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯磨きの声掛けを行い、自分で出来るよう支援している。夕食後は特に力を入れて行っている。又週1回歯科医の訪問があり口腔ケアを行っている。		

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、トイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンや行動からトイレへ案内し日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。以前は夜間おむつ使用していた利用者が現在はポータブルトイレを使用し排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中適度な運動や水分、乳製品、食物繊維を多く含む食品を取り入れ等、自然に排便ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めずに、できるだけ希望に合う時間に入浴できるように支援している。拒否のある方に対しては時間をずらす、職員を替えるなどの対応や、ご家族に協力してもらい一人ひとりに合った支援をおこなっている。	入浴は利用者の希望の時間に週2～3回支援している。利用者は好みのシャンプーを使用したり、フットバスで足を温めたり、羞恥心にも配慮して気持ち良く入浴ができる工夫をしている。入浴拒否が強い方は、職員や時間を替えたり、家族の協力やタイミングに合わせて、安全に配慮しながら2人介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間の把握や室温、明るさ、寝具等、気持ちよく眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルと専門のファイルに整理し、職員が内容を把握できるよう努めている。薬の変更があった時は、申し送り等で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、野菜のつくろいなど職員と一緒にやり、やり遂げる事で満足感が得られるよう支援している。又職員は必ず、「ありがとう」と。伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるよう、散歩、ドライブ、買い物に出掛けるようにしている。車いすの方でも法人内の車両を借りて外出するようにしている。	日頃は敷地内を散歩したり、食材の買い物に出かけている。また季節を感じる桜見やイルミネーションを見にドライブしたり、利用者の希望を聞いてアイスを食べに出かけている。法人内の保育園との合同遠足等イベント参加時には家族に同意を頂き外出している。	

沖縄県(グループホーム こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お二人だけ、お財布に少量の金銭の管理をされている。散髪や、お菓子を買に行くなどご自身で支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話をかけたいときにかけれるようにしている。又ご家族からの電話があった時は本人に代わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な温かさを感じられるよう、木製の家具など多用している。落ち着ける雰囲気や季節感を感じられるよう、季節の飾りづけを行っている。(花、雛飾りなどの飾り物等)	乾燥の時期には空気清浄機や加湿器を設置している。居間には利用者それぞれが好きな場所でくつろげるように椅子を配置している。高い天窓から日光が差し込み、室内の電灯もオレンジ色の暖かみのある電球に配慮し、場所によっては新聞等が読みやすいようにLED電球も設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールと庭先にベンチや椅子を置くことで、一人でも他者とでも、くつろげる居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に合わせたベットの位置や部屋飾りなど、居心地の良い空間づくり努めている。入居者には、使い慣れたものの持ち込みをご家族に勧めている。	居室はフローリングと一部は畳が敷かれており、ベッド・洗面台・タンス等が備え付けである。利用者は馴染みのテーブルや椅子、家族の写真や趣味の小物、観葉植物等を飾り、利用者が心地よく過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子の方でも移動が出来るようになっている。また、ご本人の状態に合わせてテーブルや椅子を変更するなど配慮している。		